

女性建築士が保育園改修を提案

8月20日、杉並区役所では東京建築士会杉並支部や東京建築士会女性委員会に所属する女性建築士が企画をした、保育園の改修の提案発表会が行われます。この提案は、保育園の利用経験を持つ女性建築士の立場から、待機児童問題が顕在化する中、建築士としての目線で対策を提案するもので、待機児童対策の早期解決を願う思いから企画されました。入場は無料で、保育園事業者や保育行政に携わる多くの方の来場を期待しています。

杉並区の待機児童数は、就学前児童の人口増や女性の社会進出の高まりなどを受け、保育所入所申込者が大幅に増加したことなどに伴い、28年4月1日現在で136人となりました。この保育ニーズの高まりは、今後も続いていくことが見込まれ、4月18日に「すぎなみ保育緊急事態宣言」を発表しました。そして、区有地を中心に2000人程度の定員を確保するための保育施設整備に取り組んでいます。

しかし、区有地の活用には限界があります。また、区有地の活用には、近隣の住民の理解を得る必要もあります。特に、今年度の保育施設整備では、既存の公園の敷地の活用によるものがあり、公園利用者からも子どもたちの遊び場がなくなること、地域の防災拠点が失われることへの心配の声が寄せられています。

保育園を利用したい保護者と公園などに保育園を作ることに異議を唱える人、そして保育施設の設置義務者である行政が、それぞれの立場で意見が交錯しています。こうした中、東京建築士会杉並支部支部長の村上美奈子さんと東京建築士会女性委員会委員長の中野晶子さんが、二人ともかつては保育を利用していた立場でもあり、建築士という専門知識を活かして提案ができないかと立ち上がりました。

今回の提案は、既存保育施設の改修によって、定員数を確保するとともに、施設の機能や安全性を高め、保育の質も同時に確保するものです。既存施設1ヶ所で10名の定員を増やすことができれば、全体では相当多くの定員が確保できます。また、土地の確保が必要ないため、経費の削減と工期の短縮も見込めます。

提案会では、杉並区立今川保育園と高円寺東保育園の改修計画案を提示。改修を行うことで、それぞれ10名と30名程度の定員増を見込む提案になります。区では、今後も保育所への入所希望者が増加することを見込んでいて、こうした手法にも積極的に取り組んでいきます。